

林家の林業活動についての意向と作業実施率との比較検討 —各種の林業経営意向調査と農林業センサス等統計調査を用いて—

○田村 和也（森林総研）

はじめに

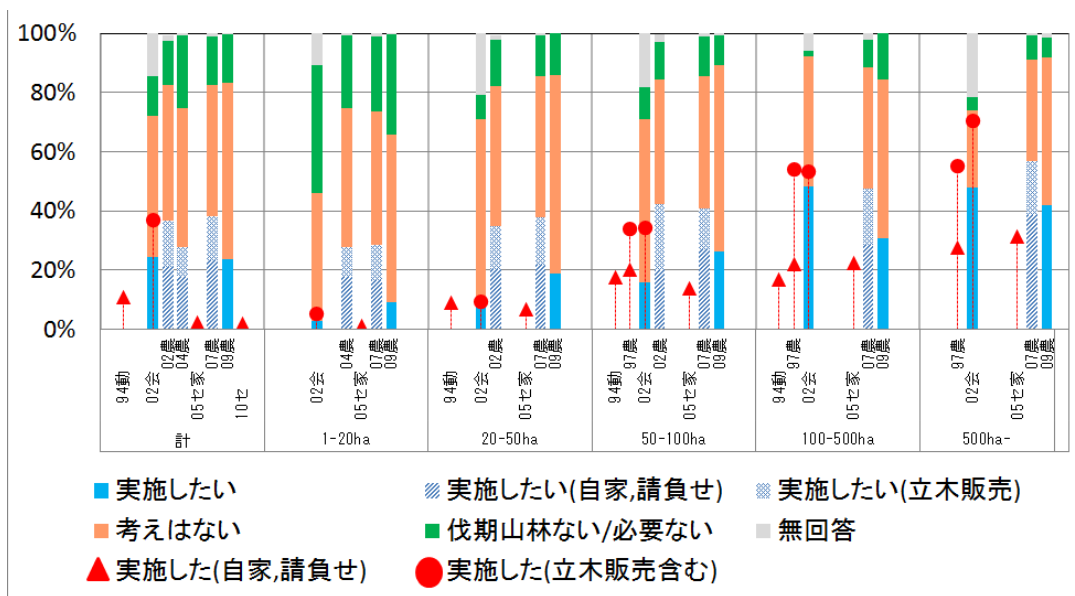
国内林業の将来を見通す上で、林家の林業活動状況と今後の意向は重要な因子であるが、調査等で把握した意向がそのまま活動に反映されるとは限らない。そこで、90年代以降の主な林家意向調査結果を統計に拠る林業活動実績と比較し、その差を概観的に検討した。

方法

意向調査として、農林水産省統計部の調査(平成21年度林業経営に関する意向調査、等)、山林会会員アンケート(1)等の公表結果を用い、主伐や保育の実施意向率について各回結果を同等の回答カテゴリと保有山林面積規模別に整理した。また作業実施実績として2005年農林業センサスの林業作業実施率(2)等を用い、これらを時系列的に比較した。

結果と考察

林家の今後5年間の林業作業実施意向とセンサスにおける実施率を比べたところ、保育および間伐では各規模階層とも差は小さかった。いっぽう主伐では若干開きが見られ、特に小規模層で開きが大きい傾向があった(下図;棒グラフは各回調査における主伐の実施意向、△・○印は実施率)。当日は他の調査結果の比較も交えた検討結果を報告したい。



引用文献

- (1) 林政総研レポート No. 63(2003) 第5章に掲載のアンケート結果
- (2) 作業実施状況の保有山林面積規模別集計は公表されていないため、餅田・志賀編『日本林業の構造変化とセンサス体系の再編』(2009)、p. 80の表数値を用いた。

(連絡先: 田村 和也 nickteio@ffpri.affrc.go.jp)